

(5) 東海



東海地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 公共投資は前年を上回っている。

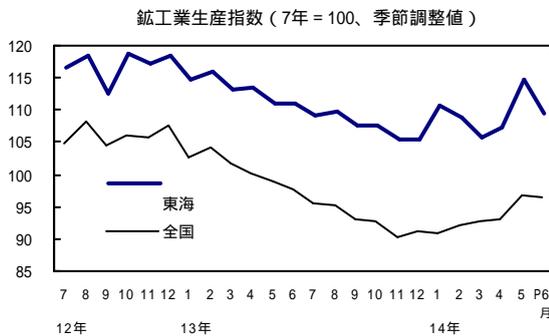
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
総括表現	下げ止まっている	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
公共投資	前年を下回っている	前年を上回っている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

輸送機械は、自動車の国内向けが一部新型車種を除き弱含みとなっているが、米国を中心とする輸出向けが全体をけん引していることから堅調に推移している。一般機械は、土木建設機械が公共工事等の減少等により低迷しているものの、金属工作機械では輸出向け、国内向け共に自動車関連が動き、繊維機械でも中国向け輸出等により増加の動きとなっていることから、全体でも増加している。電気機械は、家電や電子計算機・同関連装置が横ばいとなっているものの、重電機の下げ止まり、半導体集積回路の増加により、全体でも増加している。窯業・土石は、陶磁器の生産が低調であるが、ファインセラミックスに持ち直しの動きがみられる。化学は、プラスチックに動きがみられ、全体で増加している。



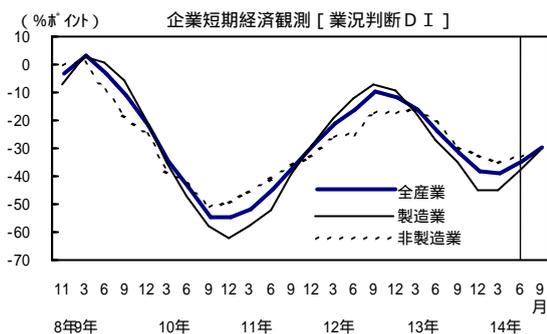
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
輸送機械	30.3	6.3	0.6	3.4	4.8
一般機械	11.4	2.4	4.3	5.7	1.7
電気機械	11.2	2.0	6.5	10.8	0.6
窯業・土石	7.3	4.9	0.7	4.3	2.3
化学	5.7	0.8	2.6	7.5	2.9
鉱工業	100.0	2.1	2.0	3.8	1.0

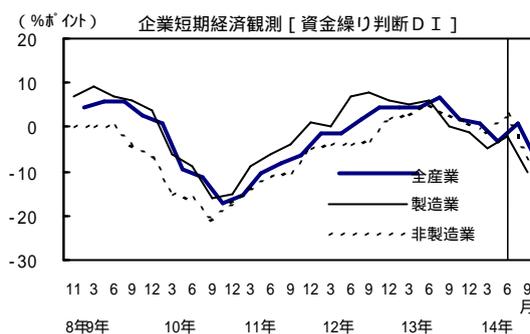
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。
3. 4~6月期は速報値。

(備考) Pは速報値。

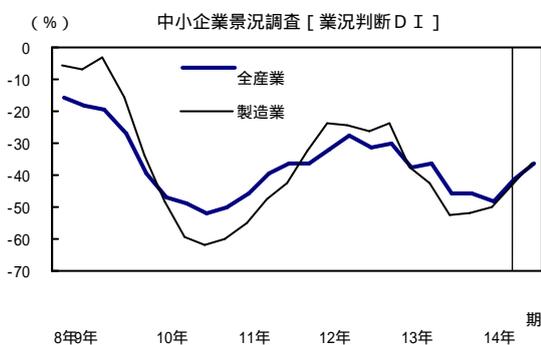
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「受注量、販売量ともに大きく低迷を続けている。さらに、地元の手元大手土木建築企業の倒産もあり、全体的に沈滞気配である (鉄鋼業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

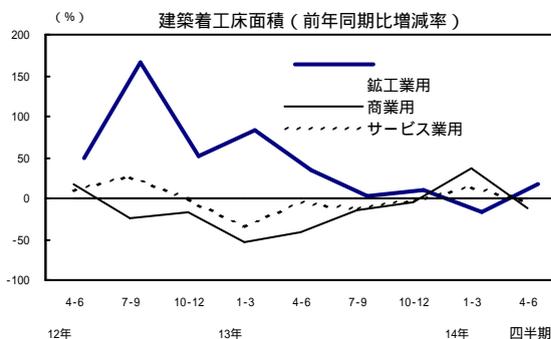
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	6.5 [2.2]	1.2 [8.6]
製造業	5.2 [6.7]	0.7 [6.8]
非製造業	14.6 [8.2]	2.9 [10.0]

(備考) []は前回 (3月) 調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

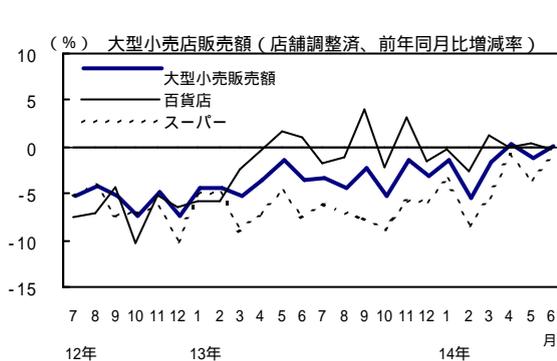
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は気温が高めに推移したことにより初夏物衣料に動きがみられたものの、紳士服やその他の衣料品が振るわず、前年を下回った。5月は天候不順の影響で婦人服を中心に衣料品が伸び悩んだものの、飲食料品が好調で、前年を上回った。6月は、下旬の天候不順の影響で夏物衣料が伸び悩み、かつ全般的な低価格傾向、消費行動の慎重さが引き続きみられ、前年を下回った。このように一進一退ではあるものの、マイナス幅が小さくなるなど、下げ止まりの動きをみせている。

スーパーは、低価格傾向による衣料品、飲食料品等の低調な動きが直近も含めて続いており、42か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

「携帯電話は新規購入の方が買換えよりも安いと、解約して新規購入する人は増加しているが、契約者数は純増していない(通信会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

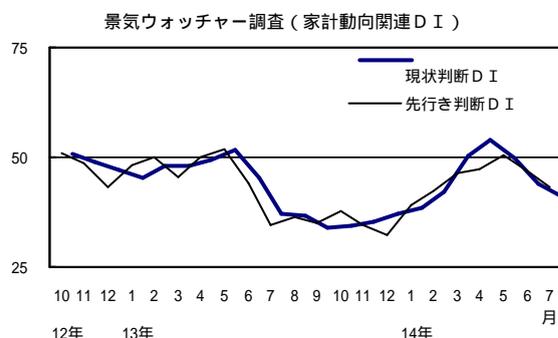
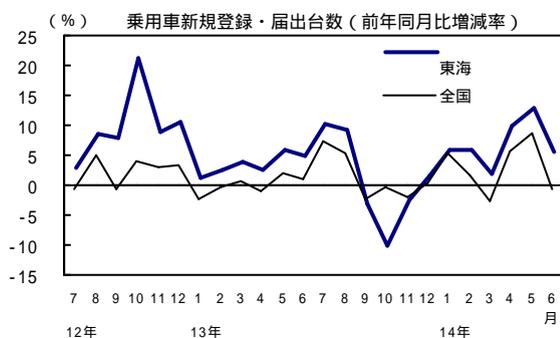


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	4.3	4.2	3.7	1.3
百貨店	0.1	0.3	0.4	0.0
スーパー	6.9	6.7	5.6	2.0
乗用車	2.4	6.1	1.5	6.5
景気ウォッチャー	32.5	32.1	40.2	45.8

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

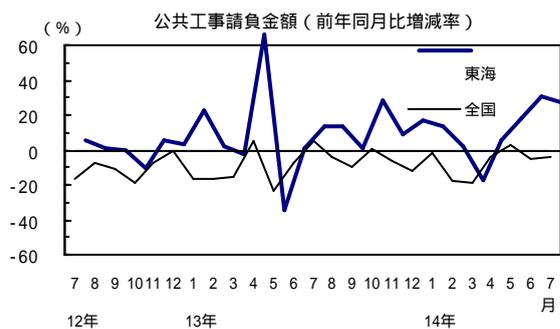
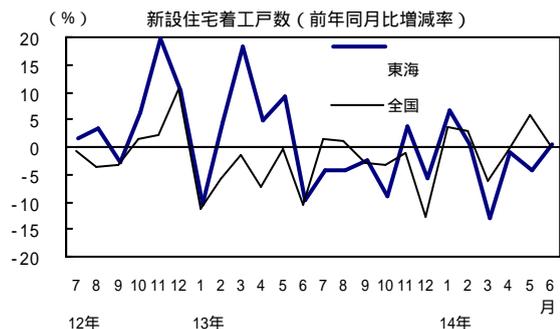
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

持家が前年をわずかに上回ったものの、貸家が前年を下回っていることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を上回っている。

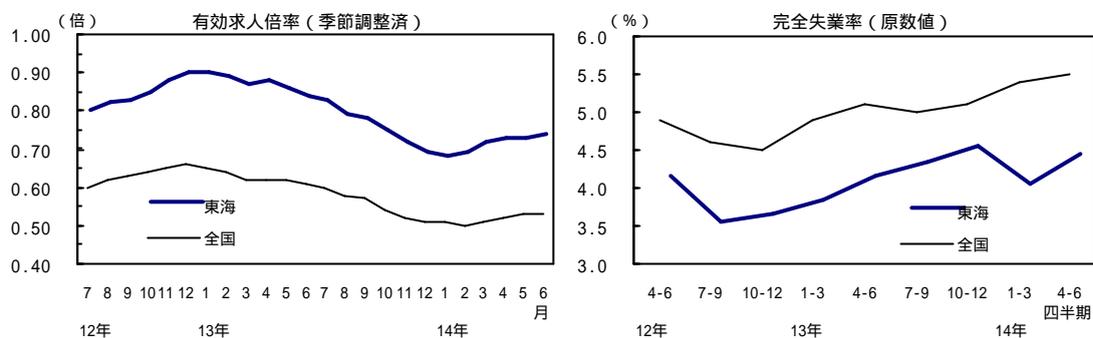


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は、前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

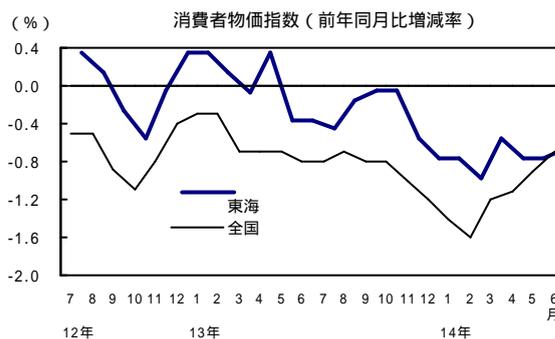
「各企業とも最低限の派遣社員は必要としており、派遣社員の需要は横ばい傾向である(人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、7月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が横ばいである。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数 (前年比)	458 4.3	480 9.3	460 11.9	466 8.1	167 9.2
負債総額 (前年比)	1,684 13.4	2,378 0.7	3,486 212.4	2,590 69.2	3,643 963.3



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

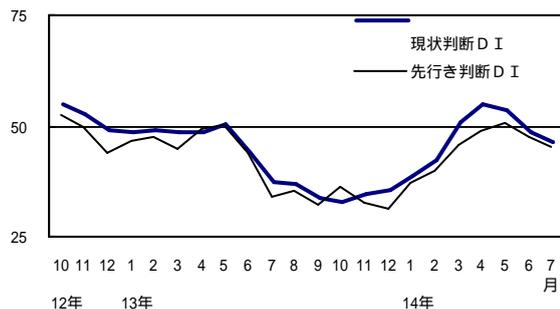
<現状>

・飲酒運転の罰則強化の影響で特に飲食店向け販売の減少が著しく、販売量、来客数ともに大きく減少している(一般小売店[酒])。

<先行き>

・新企画の売行きをみても好転する材料は見当たらず、停滞気味で徐々に悪化する傾向が続く(旅行代理店)。

景気ウォッチャー調査 (合計D I)



(6) 北 陸



北陸地域では、景気は下げ止まっている。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はこのところやや持ち直している。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる。

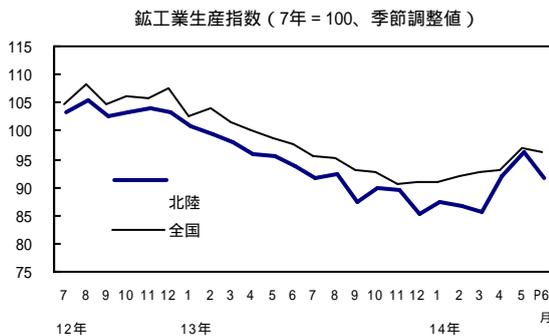
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
総括表現	依然として厳しい状況にある	下げ止まっている	
鉱工業生産	減少	増加傾向	
個人消費	やや弱含み	このところやや持ち直し	
雇用情勢	依然として厳しい	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

金属製品は、アルミ建材の主力の住宅用が引き続き低調であるが、首都圏の再開発事業に伴うビル用が底固く推移しているほか、鉄骨、橋梁等が増加し、全体で持ち直している。繊維は、衣料用外需で中国向けを中心に減少し、内需でも、低価格輸入品との競合、衣料品販売の減少等により、引き続き低迷している。電気機械は、液晶ディスプレイが高い操業度を維持し、DVD関連機器向け等の半導体集積回路を中心に増加し、全体で急増している。一般機械は、建設機械が減少しているものの、工作機械が下げ止まり、繊維機械が中国からの受注により高水準で維持しており、全体で急増している。化学は、医薬品が減少傾向にあるものの、医薬部外品がドリンク剤を中心に堅調に推移しており、全体で持ち直している。



(備考) Pは速報値。

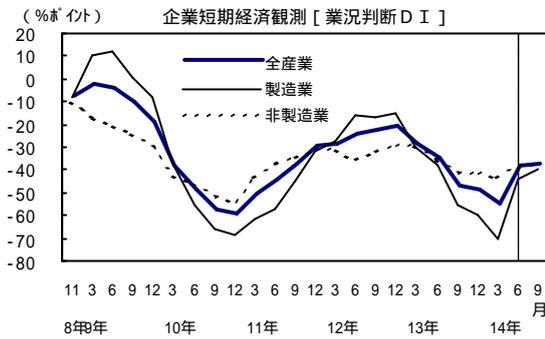
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
金属製品	15.6	0.3	4.6	-	-
繊維	15.3	5.9	3.7	-	-
電気機械	14.6	1.2	27.2	-	-
一般機械	13.2	0.6	17.0	-	-
化学	11.3	1.6	5.3	-	-
鉱工業	100.0	2.0	8.4	-	-

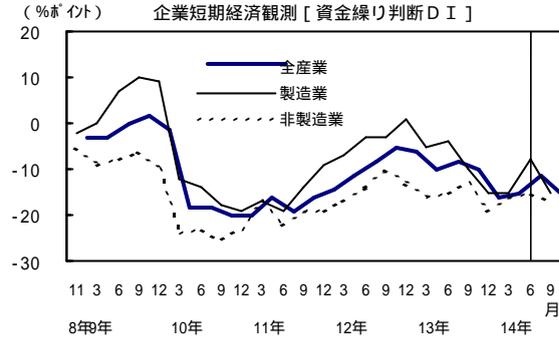
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 4~6月期は速報値。

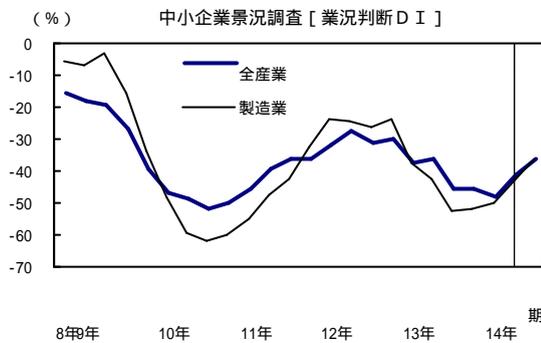
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。
 中部地区のD I。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「公共土木工事の発注量の減少が顕著で、土木部門の人員に余剰感がある。反面、民間建築の受注が増加しており、建築部門の人員不足が生じている (建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

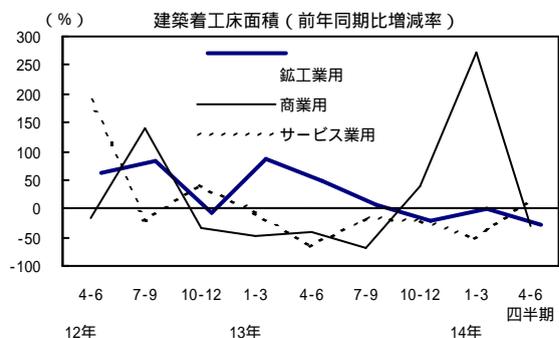
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	13.8 (5.0)	11.6 (3.0)
製造業	16.9 (7.4)	17.2 (3.0)
非製造業	7.0 (0.1)	0.3 (2.8)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はこのところやや持ち直している。

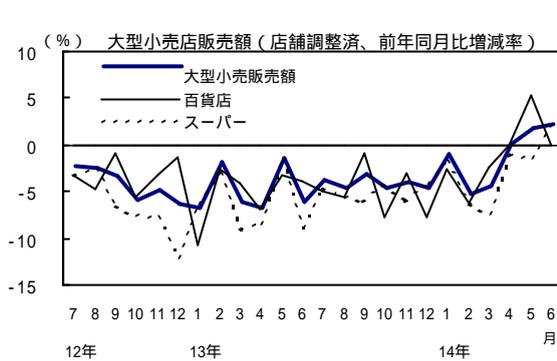
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、4月は春物の前月への前倒しなどから紳士服等が振るわなかったものの、身の回り品は好調であった。5月は婦人カジュアルの一部に動きがあった衣料品や、飲食料品が好調であり、また一部増床効果もあって、25か月ぶりに前年を上回った。6月は、気温が高めに推移したこと等により紳士服や婦人服が好調で、衣料品が前年を上回ったものの、飲食料品が肉類を中心に振るわなかった。

スーパーは、4、5月は果物の相場安、肉類や乳製品等も振るわないなど飲食料品等の不振が続き、衣料品も引き続き低調ではあったものの、6月は飲食料品が清涼飲料等を中心に動き、27か月ぶりに前年を上回った。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「3か月前とあまり変わらないが、今月は季節商品が落ち込み、特に水着などが昨年と比べて非常に悪い(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

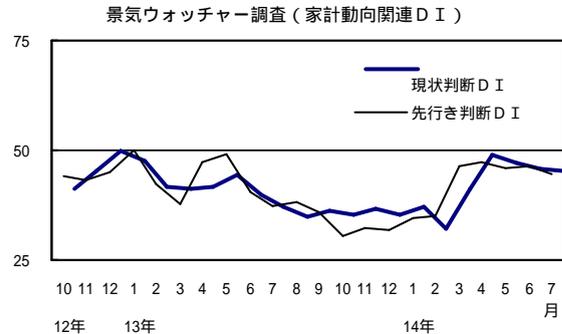
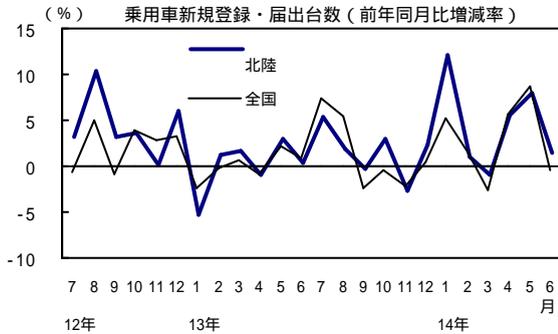


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	4.8	5.4	4.3	0.6
百貨店	4.0	6.4	3.5	1.7
スーパー	5.3	4.8	4.7	0.0
乗用車	0.7	0.9	0.1	3.1
景気ウォッチャー	32.5	32.2	33.2	44.0

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

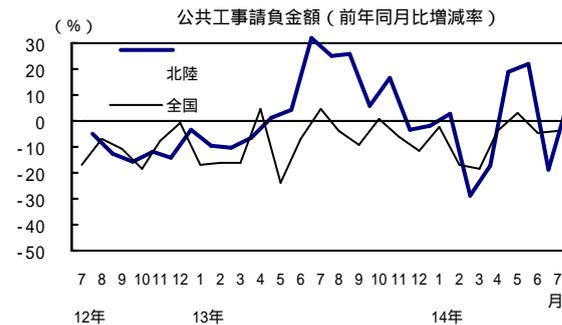
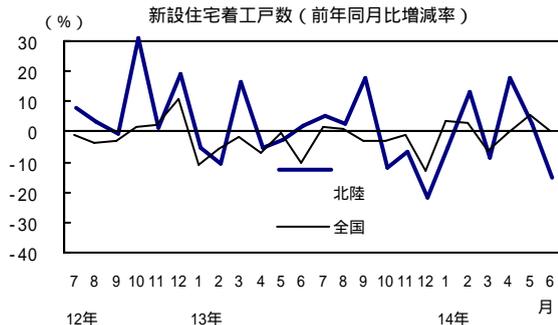
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲が前年を上回ったものの、持家、貸家が前年を下回っていることから、全体では減少している。

(3) 公共投資は前年を下回っている。



(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は増加傾向にある。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

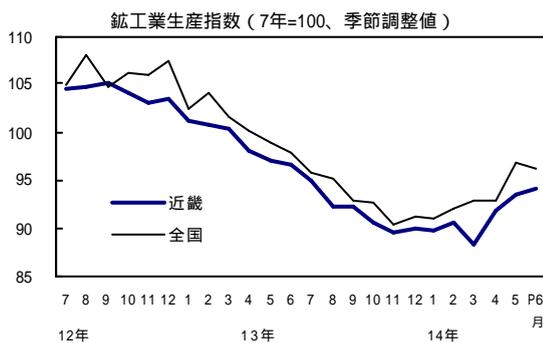
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 14 年 5 月)	今回 (平成 14 年 8 月)	
総括表現	下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	
鉱工業生産	おおむね横ばい	増加傾向	
個人消費	やや弱含み	おおむね横ばい	
住宅建設	緩やかに減少	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は増加傾向にある。

電気機械は、電子部品関連の在庫調整はほぼ終了し、アジア向け輸出が堅調に推移していることから生産は引き続き増加している。一般機械は、建設機械などは公共事業関連向けが弱いことから依然として低調なもの、半導体製造装置に回復の動きがみられるなど生産は増加している。化学は、在庫は減少傾向にあり、液晶用フィルムなどの電子材料が持ち直し、生産は増加している。繊維は、紡績や織物を始め需要の低迷や輸入品との競合から不振が続いている。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

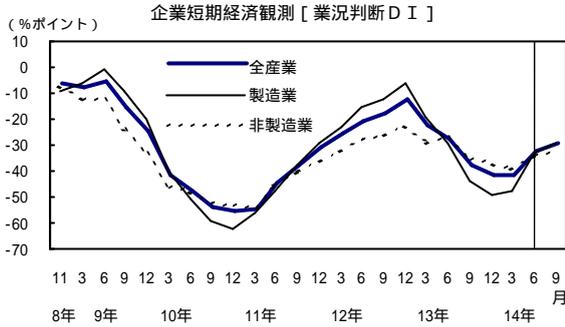
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
電気機械	17.7	2.6	3.8	6.3	10.5
一般機械	16.2	0.1	4.3	4.0	8.3
化学	11.8	2.7	1.9	1.3	3.1
金属製品	7.3	5.0	1.6	3.1	7.7
繊維	7.3	2.8	2.6	3.8	6.2
鉱工業	100.0	0.6	4.1	3.6	5.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種
2. 4~6月期は速報値

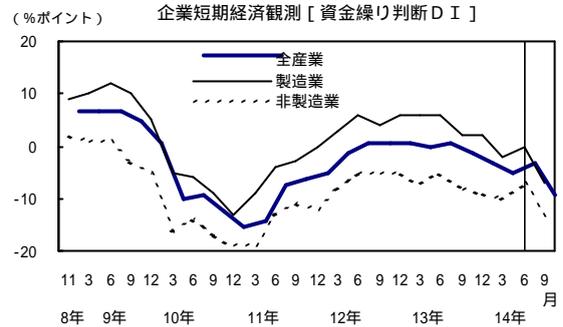
(備考) Pは速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

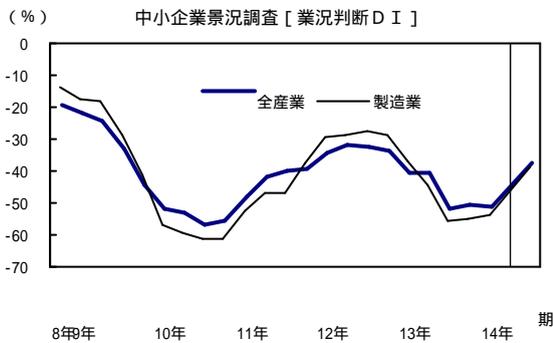
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。9月は予測



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。14年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「このところ季節商品の早めの展開が奏効していたが、小売店では思ったほど売れないため店頭在庫が増大し、最近では仕入れが抑えられている (その他非製造業 [衣服卸])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

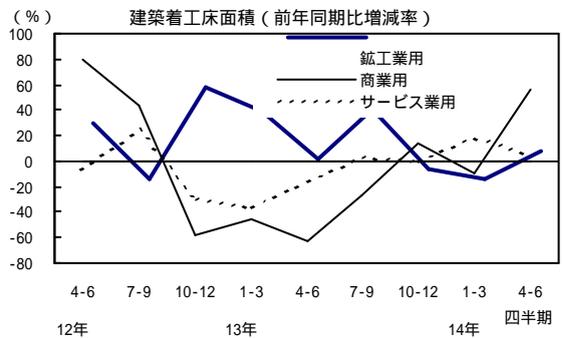
(3) 設備投資の14年度計画は前年度実績を下回っている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	13年度実績	14年度計画
全産業	12.5 (3.5)	7.7 (2.3)
製造業	13.6 (2.2)	12.6 (5.1)
非製造業	11.4 (4.7)	3.1 (0.2)

(備考) ()は前回 (3月) 調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

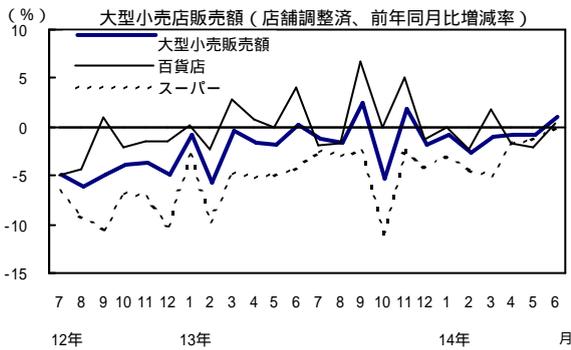
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、1～3月期の前年並みの後、4～6月期は前年を下回った。月次の動きをみると、4月、5月と前年を下回った後、6月は中元ギフトが好調なことから3か月ぶりに前年を上回った。商品別にみると飲食料品や身の回り品が増加した。

スーパーは、32か月連続で前年を下回っているものの、減少幅は縮小している。6月の動きをみると、衣料品、家具・家電・家庭用品は不振であったものの、主力の飲食料品が増加した。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I(現状判断)]

「夏物セールの上立ちがりを早めたり、バーゲン等のチラシを強化し、購買意欲を高める仕掛けをしたが、売上に反映されていない。バーゲンまとめ買いの客も減少している。婦人服では水着の不振が大きく響いている(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

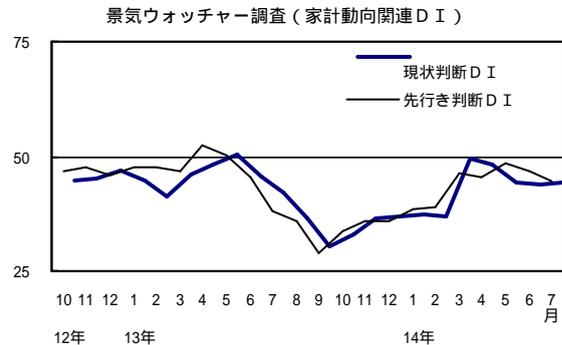
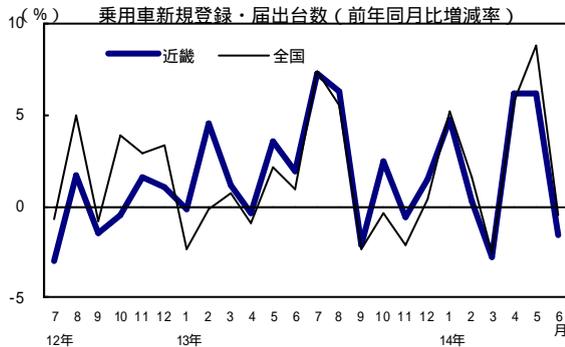


(前年同期比増減率、単位：%)

	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月
大型小売店	1.1	2.7	2.3	1.1
百貨店	0.7	1.0	0.0	1.1
スーパー	2.7	5.8	4.0	1.0
乗用車	3.4	1.1	0.2	3.1
景気ウォッチャー	33.1	32.1	38.1	42.2

(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。

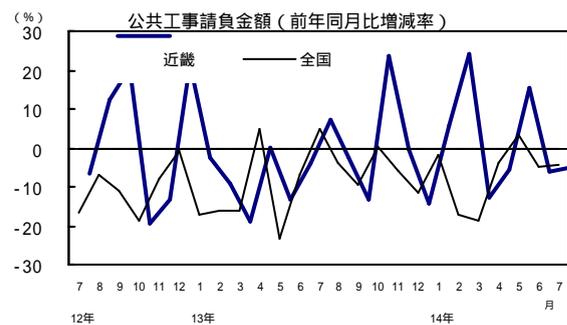
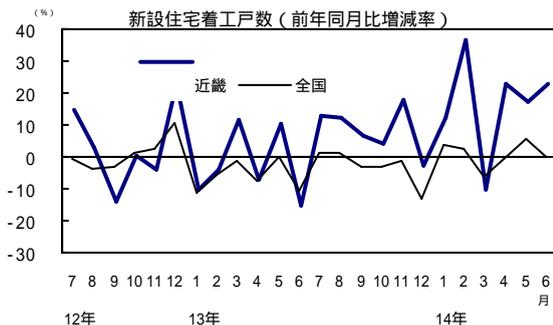
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家の増加を主因に前年を上回っているものの、前年からの反動増もあり基調としてはおおむね横ばいである。

(3) 公共投資は前年を下回っている。

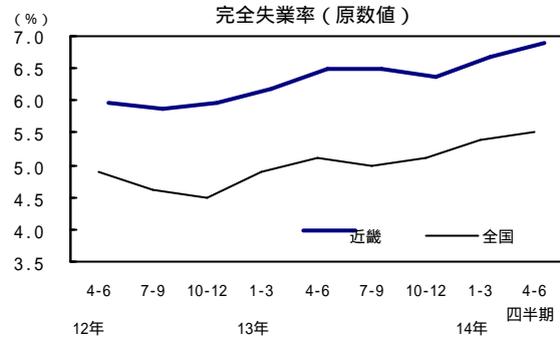
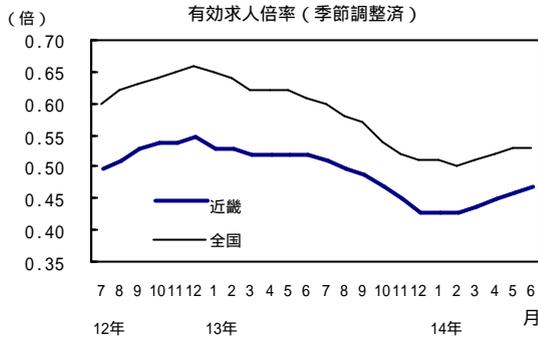


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は、緩やかに改善している。完全失業率は、前年同期を上回り、依然として高い水準にある。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

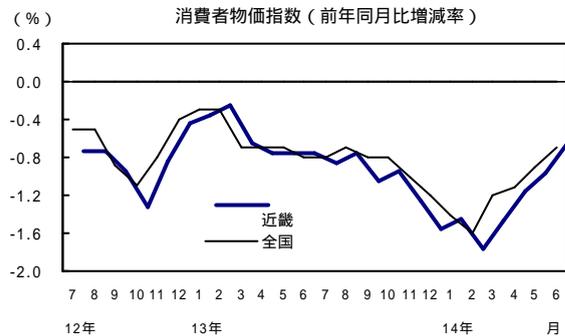
「客別の売上高の変動が非常に激しく、求人数が増加傾向にある企業と減少傾向にある企業の間で増減交錯している (人材派遣会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	13年7-9月	10-12月	14年1-3月	4-6月	7月
倒産件数 (前年比)	1,094 2.1	1,211 14.4	1,084 3.1	1,082 2.3	400 8.4
負債総額 (前年比)	28,186 94.1	5,779 0.1	8,549 40.8	6,759 8.3	1,912 34.4



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・ブロードバンドサービスの普及速度が一段落してきている (通信会社)

<先行き>

・大型テーマパークでのトラブル報道により、これからの需要が心配される。夏休みの需要も終わり、秋以降は悪くなると考える (都市型ホテル)

景気ウォッチャー調査 (合計DI)

